

## 堆肥の有効活用で町おこしを

森田慎治議員

町長はこの度の町長選挙立候補に際してマニフェストを作成した。その中で農協と一体となり、50〜60万トンの堆肥資源を活かして有機農業を推進しブランド化を図りたいとあるが、短期で実現でき

るものではない。確たる考え、道筋を示して具体的に取組むべきではないか。また、生産者、農協、行政の3者が一体となり、中長期的に取り組まなければならぬが、行政として経済的支援をすべきではないか。



3月に完成したJA十勝清水町家畜排泄物堆肥化施設

高薄町長

以前から家畜排泄物の有効活用を協議してきたが、この度、国庫補助2分の1、残り2分の1を農協負担で堆肥化施設をつくることになり、本年3月に完成した。完熟堆肥とペレットを製造して生産農家に還元し、化学肥料の減肥を行って、有機農業の目標に向けていくことでクリーン農業を目指すも

のである。

支援は農協とも協議をしており、各農家の利用にはずみがつくような支援をしようと進めてきたが、本格的な利用は来年度からになるため、その際に助成を考えていく。

## 防風林の持つ価値観を再認識しては

森田慎治議員

行政報告で強風等の被害報告があつたが、災害は忘れた頃に起きると言われる。近年の農業情勢の変化は加速しており、農地移動による規模拡大、基盤整備、機械の大型化が進み、気候の変化もあつて風害に対する関心は失われ、経済優先、樹齢にともなう伐期などで防風林は伐採されるが実情である。風害防止はも

とより、景観、環境の上からも大切で、行政として当事者の理解を求め、植林を奨励していく考えはないか。



防風林の再造林は風害防止には欠かせない

## 地方向け基金と臨時交付金の有効活用を

安田 薫議員

経済危機が「全治3年」と言われる以上、克服には複数年度を見据えた対策が必要である。こうした観点から補正予算に盛り込まれた予算執行の具体的手法が基金で、環境対策や福祉・子育て支援に向け、施策を複数年度にわたって実施するものである。これとは別に政府・与党は自治体向け支援として地域活性化・経済危機対策臨時交付金も創設しており、この交付金と基金を併せて効果的に活用すれば、更に充実した施策が低負担でできると考えるが、町としての考え方をうかがう。

高薄町長

経済対策には、森林整備加速化・林業再生基金、

緊急雇用創出事業臨時特例基金等の46基金で総額4兆3674億円が含まれているが、まだはっきりしていないところがたくさんあり、情報を得た中で対処していきたい。

地域活性化・経済危機対策臨時交付金は、平成21年4月11日以降に予算計上され、年度内に実施する事業が対象となり、町内発注の可能性、緊急性、総合計画への掲載事業を優先して対象事業のリストアップを行い、総額約2億5000万円の事業案を決定したが、今後、詳細が決定されるため、追加、削除、修正の可能性がある。

## 「スクール・ニューディール」に対する施策は

安田 薫議員

新たな国内需要を創出する観点から、公立小